



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2023年03月13日 第1109号「週刊五十嵐レポート」

バブルを呼び水に

3月7日付朝日新聞、「ニセコ復活」では、韓国の財閥系企業がコンドミニアムを建設を進める。ニセコ中心地、倶知安町周辺で香港、豪州などの外国資本によって開発された高級ホテル、コンドミニアムが点在する。土地の路線価格の上昇率は20年まで6年連続日本一。「バブル」との声。

2月14日付朝日新聞、「熊本半導体まさにバブル」。ほんの1年前では21ヘクタールの更地に要塞のような建物の建築が進む。台湾積体回路製造(TSMC)の工場。半導体関連企業の工場進出が目立つ。それに伴い、住宅、教育機関など都市整備が始まっている。22年9月に発表した基準地価では、工業地の上昇率31.6%は全国1位の伸び率。

岩手県八幡平市の安比高原で、英国の名門私立校「ハロウスクール」のインターナショナルスクールの22年8月に開校。海外の姉妹校は欧米の有名大学へ多数の進学実績を誇る。誘致した県内企業は将来、同校を拠点に2000人規模の学園都市をつくる計画で、教育を核にした地域活性化を目指す。

1月28日付朝日新聞、「マンションまだ上がる見解も」。首都圏の新築マンション価格の高騰が続いている。2年連続でバブル期を超える最高値を更新。海外の主要都市に比べて都心のマンションは安いという指摘。

日本はバブル崩壊後、失われた30年、日本経済は長期低迷をしていると言われている。我々は「バブル」という言葉に縛られていないか。広辞苑で「バブル」は「投機によって生ずる、実体経済とかけはなれた相場や景気」と書かれている。ということは、実態経済とかけ離れていなければ、バブルではない。

上記の事例は全て外国資本が日本に投資して、その波及効果が生まれて経済が上昇基調になっている。これは「バブル」ではなく、実需である。これらの事例の通り、外国資本と外国の人材を受け入れることが日本経済の活性化につながり、持続していくことが局地的であろうと経済を浮揚するきっかけになる。そうしないと日本は再生しないと思う。外国資本と外国人材をもっと呼び込もう。

ちょっと
気になる出来事

3月1日付日経新聞「ヨーカ堂店舗2割削減」という記事。

セブン&アイ・HDはイトーヨーカ堂の店舗を26年6月まで2割超削減すると発表。グループ発祥の一つアパレル事業から撤退し、食品に経営資源を集中する。

物言う株主から「コンビニに集中すべきだ」と言われ続けていた。そごう・西武百貨店を売却し、アパレルから撤退、コンビニとスーパーを中心に食品に経営資源を集める。

大企業と言えども、「総合化」の難しさ。各事業で強い競争相手がいる。そこで戦って勝っていくのは至難の業。

日本の製造業でも世界で戦っているのは専門特化した製造業。総合化や複合化は難しいといえる。

まして、小さな会社は一点集中して、そこから深掘りして周辺を広げていくことが得策ということが見えてくる。総合化は経営資源を分散して力が弱まる。セブン&アイはそれを教えてくれる。



一口メモ
知識

剛健篤実(ごうけんたくじつ)

剛健篤実にして輝光(きこう)日に新たなり。(山天大畜)

「剛健篤実」は障害があっても粘り強く、日々進み、何事も手厚く取り組み、中味と実質を蓄えること。

「輝光」とは力強い光。努力を重ね、日々新たに成長するならば、圧力や障害があっても、必ずその光(徳)は輝いて外に漏れ出ると教えている。

山天大畜(さんてんたいちく)は、山が天の養分(徳)を蓄える時。すそ野広く、高く蓄積する「大いなる蓄積」を説く卦(か)である。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時~12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

